

第2学年4組 英語科学習指導案

北九州市立浅川中学校
指導者 主幹教諭 波多野 皓一
ALT Kyle Caro

英語教育リーディングスクール研究主題

多様なグローバル社会の中で積極的にコミュニケーションを図り、
自分の考えや気持ちなどを即興的に英語で表現できる生徒の育成

1. 単元名 Presentation 2 町紹介 (*NEW HORIZON English Course 2*)

2. 指導観

○ 本学級の生徒は、小学校での外国語活動の学習を踏まえ、英語でのコミュニケーション活動に大変意欲的に取り組んでいる。「Enjoy making mistakes and be active!」をスローガンに、間違いを恐れることなく意見を発信し、他者の考えを受容しようという支持的風土がある。学期末に行ったアンケート結果からも、「友だちと意見交流をするのが楽しい」、「間違えてもいいという雰囲気があり、友だちが自分の考え受け入れてくれる」などの前向きな意見が出た。また、帯活動のショートスピーチや1分間チャットでは、互いの考えを認め合いながら、相づちをうったり、質問し合ったりして、「生徒が伝えたい」という気持ちを大切にしながら即興的なやりとりに取り組んでいる姿がうかがえる。このように主体的・対話的で深い学びを行いながら、4技能の総合的な育成を図りたいと考えた。

○ 本単元は、既習の語彙や言語材料を用いて自分の考えを発信できる Presentation の単元である。ここでは、「町紹介」という場面が取り上げられているが、誰に何のために伝えるのかという相手意識をもたせるため、来日する ALT の先生に福岡県のおすすめの場所を紹介する場面を設定した。今年、新型コロナウイルス感染症の影響により、海外からの渡航制限が行われ、本市で勤務される予定の ALT の先生方も入国できていない。そこで今回は、ALT の先生方から「福岡県について知りたい」という旨のビデオレターを紹介し、ALT の先生に向けて伝えるという相手意識をもたせながら、自らの考えを発信したいという気持ちを高められるような手だてをとった。

また、本時帯活動の1分間チャットでは、前単元で学習した I think や理由を説明する because などを使用して、「技術の発展」について生徒に意見を求めている。本市は「SDGs 未来都市」に選定されているが、SDGs17の目標「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」という持続可能な開発目標について、英語で生徒に考えさせる場面を設けることも、これからのグローバル社会の中で逞しく生きる人材を育成するために必要であると考えテーマとして取り上げた。

○ 指導に当たっては、即興的なやりとりを目標としている。来年度から全面実施される新学習指導要領では、互いに考えや気持ちなどを伝え合う対話的な言語活動を一層重視する観点から、「話すこと」を「発表」と「やりとり」の2つに細分化している。本時は「やりとり」の部分に焦点を当て、既習の言語材料の使用における「言語面」の指導のみにとどまらず、生徒が表現する「内容面」に焦点を当て、2つの視点から指導を行う。やりとりの際には、相づちやつなぎ言葉を用いたり、質問したりして、一往復のやりとりで終わらないようにしている。

また、週に1度行われるアウトプット中心のリーディングクラス【別添資料参照】では、適切な「目的・場面・状況」の中で既習の言語材料を繰り返し使用しながら、「初めて来日する ALT の先生に福岡県の観光マップを作成する」という単元目標の下、ALT の先生に伝える必然性と相手意識をもたせるための場面を工夫した。活動後には必ず中間指導を行い、言語活動、指導、言語活動という流れを徹底させ、生徒が「伝えたい」気持ちを英語で表現できるような手だての一つとした。

3. 本単元における主体的・対話的で深い学び、学習評価の工夫

○ 主体的・対話的で深い学びの工夫について

本時では、前述のように適切な「目的・場面・状況」の設定の中で、相手意識をもたせながら意見交流を行う。自らの考えや気持ちを伝え、それを聞き手が尋ね返したり、質問したりすることでコミュニケーションの必然性が生まれる。やりとりを行う際には、既習の言語材料の使用にとどまらず、相づち、つなぎ言葉の使用や質問等を通じて、活発に意見交流を行う。「私は～だと思ふ。あなたは どう思う？」など、伝えたい・聞きたいという傾聴の姿勢は、主体的・対話的で深い学びへとつながり、それらの力はコミュニケーションの根幹となるものである。

○ 学習評価の工夫について

学習評価については、既習の言語材料などを用いながら、間違いを恐れず積極的に自らの考えや気持ちを表現しているか、「内容面」と「言語面」の双方から見取る。本時では、チャットやスピーチの途中で言えなかった表現などを机間指導しながら、汎用性の高い表現や生徒の伝えたい内容を拾い、即時のフィードバックを行う。ただし、本時で生徒一人ひとりを見取することは困難であるため、ライティングやパフォーマンステストを通じて、きめ細かに学習評価を行う。

4. 単元の目標と評価規準

(1) 目標

初めて来日する ALT の先生の興味のある事に合わせ、福岡県のおすすめの場所を紹介し、自分の考えを伝え合ったり、紹介文を書いたりすることができる。

(2) 評価規準 ※現行4観点による評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	○ 相手の考えに賛成したり、反対したり、自らの考えと比べながら、間違いを恐れず、コミュニケーションを取ろうとしている。 ○ 福岡県のおすすめの場所を、ALT の先生の興味のある事柄に合わせて、意欲的に紹介しようとしている。
外国語表現の能力	○ 相手を意識しながら、段落構成や書きぶりを工夫して、自分の考えや気持ちを書くことができる。
外国語理解の能力	○ ALT の先生からのビデオレターを視聴して、話される内容を理解し、相づちをうったり質問したりすることができる。 ○ ペアや学級全体で共有した意見などの概要を正しく理解し、適切に応答することができる。
言語や文化についての 知識・理解	○ 既習の文構造・意味や用法を理解し、場面に応じて適切に使用することができる。

(3) 評価規準 ※次期3観点による評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ There is (are) の特徴やきまりを理解している。 ・ 福岡県のおすすめの場所について、理由を交えながら、There is (are) 等を用いて伝え合う技能を身に付けている。	ALT の先生方の興味がある事をもとに、自分の考えたことや感じたことを友達の考えと比べながら、その理由などを伝え合っている。	ALT の先生方の興味がある事をもとに、自分の考えたことや感じたことを友達の考えと比べながら、その理由などを伝え合おうとしている。

5. 指導と評価の計画（総時数4時間）

主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点	評価規準及び評価方法
Presentation 2 1 ALT の先生が興味のある福岡県の観光地などを紹介する。 <本時>	○ ビデオ視聴後に ALT の先生方の興味のあることに合わせて、福岡県のおすすめの場所やその理由などを紹介させる。	【関】ALT への相手意識をもち、福岡県のおすすめの場所を伝えようとしている。（発言分析）

2 ALT に福岡県の観光マップを作成する。	○ 前時に共有した内容を英文にし、福岡県の観光マップを作成させる。	【表】既習の言語材料を用いて、福岡県の魅力をまとまりのある英文で表現することができる。 (ワークシート分析)
3 ALT とパフォーマンステストを行う。	○ 福岡県の観光地などについて、自分の考えを伝えるとともに、ALT からの質問に答えさせる。	【理】相手を意識しながら自分の考えを伝え、質問に適切に答えることができる。(発言分析)

6. 本時の学習 令和2年12月9日(水) 第6校時 リーディングルーム

(1)本時の目標 自然や歴史などに興味のある ALT の先生に福岡県のおすすめの場所を伝え合う活動を通して、お互いの考えを深め、即興的なやりとりができる。

(2) 準備 教師…教科書・パソコン・プロジェクター・タイマー
生徒…教科書・ラボノート(家庭学習帳)・ファイル・ワーク

(3) 展開

主な学習活動	○指導・支援上の留意点 【観点】評価規準(評価方法)
<p>1 授業の雰囲気づくりを行う。</p> <p>2 個人スピーチを行う。 【個人スピーチの例】 S1: Hello. I will talk about my favorite thing. Look at this picture. This is my surf board. I like surfing. Have you ever tried it? Ss: No! S1: It's very interesting. In summer, I often go to the sea in Wakamatsu. Do you have any questions? S2: Who do you go with? S1: With my father.</p>	<p>○ 音楽と同時に生徒を起立させ、ペアで25秒間に10個のリアクション表現を交互に言わせる。</p> <p>○ 発表生徒に「自分の好きなこと」など、テーマに沿ったショートスピーチを行わせ、学級の生徒とやりとりをさせる。やりとりの際には、相づちや質問をさせる等して、一往復のやりとりにならないよう留意させる。</p>
<p>3 1分間チャットを行う。 【1分チャットの例】 A: What do you think about technology? B: I think using a tablet is a good idea. A: Oh, why do you think so? B: Because I don't have to bring heavy textbooks. How about you? A: I think so, too, Technology will make our lives better. For example, robots. Do you have Roomba? It cleans our rooms. B: I see. When I went to Huis Ten Bosch, I saw some robots. They can cook. So I was surprised.</p>	<p>○ ALT と JTE のやりとりの後、与えられたテーマについて、ジェスチャー、つなぎ言葉や相づちを使って、1分間対話をさせる。(T⇄T, T→S, S⇄S)</p> <p>○ 机間指導を行いながら、言えなかった表現や質問などの中間指導を行い、学級全体で共有する。その後、異なるペアでもう一度やりとりを行わせる。</p> <p><中間指導で予想される例></p> <ul style="list-style-type: none"> • Technology will make our lives better. • It made me surprised.

【めあて】

初めて日本にやって来る ALT の先生に、福岡県のおすすめの場所を紹介しよう。

4 ALT の先生からのビデオメッセージを視聴する。

5 ペアで意見交流を行う。

○ ペアを変えながら、最低 2 往復以上の即興的なやりとりを行う。

【予想される意見交流の例】

A: Mr. ~ is interested in history, so I will recommend Kokura to him. There is a castle in Kokura. Have you ever been there?

B: No. But I know Kokura castle.

A: You can learn about old history. I think he will like it.

B: I think so, too.

A: Oh, he likes Japanese shrines, too. There is a famous shrine in Fukutsu. When I visited there, I saw the beautiful sunset. Do you know ARASHI? They visited this shrine.

6 本時の活動の価値付けを行う。

【ファシリテーターの発言例】

A: Mr. ~ likes nature. So I will recommend Itoshima. There is a big waterfall in Itoshima. Have you ever been there?

SS: Yes! /No!

A: I see. When I went there, I felt relaxed! Also, there are some unique cafes. I like cafe lattes. What do you think?

B: I will recommend Tenjin because he likes shopping.

7 本時の学習の振り返りを行う。

【予想される振り返りの記述例】

<内>来日する ALT の先生の興味があることに合わせて紹介できたので、相手の立場になって、表現できるようになりたい。

<言>学習した When を使って、糸島を訪れた時にリラックスしたと表現できた。

○ ALT の先生からのビデオメッセージを視聴させた後、生徒に内容を確認させる。

(質問例)

- What is he interested in?
- What does he like?

○ 福岡県の魅力について、ALT と JTE のやりとりを聞かせた後、数人の生徒を指名し、ALT とやりとりをさせる。

(T⇄T, T→S, S⇄S)

○ 話し手はジェスチャーを用いたり、問いかけたりして、聞き手に自分の考えを伝えさせる。また、聞き手は相づちをうったり質問したりするなどして、受け身の姿勢にならないよう留意させる。

【関】間違いを恐れず自分の意見を伝えようとしている。また、聞き手も相づちをうつ、質問するなどして積極的にやりとりを行っている。(発言分析)

○ 机間指導を行いながら、言えなかった表現や質問などを拾って中間指導を行う。その後、異なるペアでやりとりを繰り返させる。

<中間指導で予想される例>

- When I went there, I felt relaxed.
- If he likes Japanese history, I think he will like it.

○ ファシリテーター役の生徒に自分の意見を述べさせ、内容や表現の価値付けを行う。なお、ファシリテーターとやりとりをする以外の生徒も、相づちや質問、自分の意見を伝えさせる。

○ 様々な意見を聞いた後、自分の考えと比べながら、ALT の先生へおすすめする場所についての紹介文を書かせる。

○ 以下の 2 つの視点 (内容面と言語面) で、学習の振り返りを行わせる。

<内>学習した言語材料がどのような場面で使用できるか、次はこのように言えるようになりたい等、見通しをもたせ、学習の自己調整を行う。

<言>既習の語彙で言い換えられたものや、学級で共有した汎用性のある表現などを記述させる。

7. 板書計画

スクリーン	Enjoy making mistakes and be active!!									
	Wednesday, December ninth									
	初めて日本にやって来る ALT の先生に、福岡県のおすすめの場所を紹介しよう。									
	誰/何がは	どうする	誰を	どんなだ						
	It made me surprised.									
	When	誰/何がは	どうする	どこ						
When I went there										
誰/何がは	どうする	どんなだ								
I felt relaxed										
<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: top;"><tr><td style="padding: 2px;">What</td></tr><tr><td style="padding: 2px;">Who</td></tr><tr><td style="padding: 2px;">When</td></tr><tr><td style="padding: 2px;">Where</td></tr><tr><td style="padding: 2px;">Which</td></tr><tr><td style="padding: 2px;">Why</td></tr><tr><td style="padding: 2px;">How</td></tr></table>				What	Who	When	Where	Which	Why	How
What										
Who										
When										
Where										
Which										
Why										
How										

ご指導宜しくお願い致します。

リーディングの授業における単元計画と評価計画【別添資料】

本校は、北九州市教育委員会から「英語教育リーディングスクール」の委嘱を受けています。北九州市の英語教育のさらなる発展に向け、「即興的にやりとりを行う」ことができるよう先駆的に研究を行っています。具体的には、週4時間の英語の授業のうち1時間を「リーディング」クラスと位置づけ、適切な「目的・場面・状況」の中、週3時間で学習してきたことをアウトプットする活動を行っています。例えば、「浅川中学校をALTの出身のカナダの中学生、校区の小学校やホームページで紹介しよう」というものや、「新しく福岡県にやってくるALTに福岡の観光マップを作ろう」などの単元目標が挙げられます。以下は「リーディング」クラスの指導計画と評価計画の一例です。既習の言語材料を適切な場面設定の中で行い、指導の際には枠組みを与えず、生徒が表現したい内容を大切にしながら、言語活動を行っています。

また、その「リーディング」クラスのアウトプットにつなげるためにどのようなインプットが効果的であるかを模索しながら研究しています。その一例が帯活動の個人スピーチや1分間チャットです。既習の言語材料でアウトプットさせることが、生徒の新たなインプットとなり、その活動を繰り返すことで、漆塗りのように何度も何度も言語材料を使用させながら、定着を図っています。

主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点	評価規準及び評価方法
Daily Scene 3<第17週> Danieleからのメールに返事を書く。	○ 英語での手紙の書き方に留意し、昨年度まで本校で勤務していたALTの先生にメッセージを書かせる。	【表】既習の言語材料を用いて、ALTの先生からの質問を理解し、メッセージを書くことができる。 (記述分析)
Unit 5<第18週> 「ありえない?!」ことが起こったらどうするか、自分の意見を伝える。【Bridge⑦】	○ 移行措置教材Bridgeを活用して、江戸時代にタイムスリップしたらどうするか等、複数の話題の中から選択し、自分の意見を伝えさせる。	【関】ペアを変えながら、意見交流をし、積極的に相づちをうったり、質問したりしようとしている。 (発言分析)
Unit 5<第19週> これまでに訪れた思い出の場所について、感想を伝える。	○ これまでに訪れたことのある場所についての思い出を話し、その感想を伝えさせる。	【関】ペアを変えながら積極的に意見交流し、感想を尋ねるなどして、やりとりを続けようとしている。 (発言分析)
Unit 5<第20週> 示されたテーマについて、友達と自分の考えをやりとりする。【Bridge⑱】	○ 移行措置教材Bridgeを活用して、プラスチックストローの使用に伴う環境問題やペットの殺処分などの話題について、自分の意見を伝えさせる。	【関】ペアを変えながら積極的に意見交流し、相づちや質問をしながら、自分の意見と比べ、やりとりを続けようとしている。 (発言分析)
Unit 5<第21週> 身近にあるユニバーサルデザインを紹介し、考えを伝える。	○ 身近にあるユニバーサルデザインについて調べ、資料を用いながら、プレゼンテーションをさせる。	【関】ユニバーサルデザインについての資料をもとに、自分の意見を伝えようとしている。 (発言分析)
Unit 6<第22週> 思い出の場所や訪れてみたい場所を友だちに伝える。	○ 思い出の場所や訪れたい場所についてペアでやりとりを行い、まとまりのある英文で記述させる。	【表】思い出の場所などについて、理由を交えながら、自分の考えを書くことができる。 (記述分析)